

報告事項ソ

江原道教育庁訪問団の来県について

江原道教育庁訪問団の来県について、別紙のとおり報告します。

平成25年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 横濱純一

江原道教育庁訪問団の来県について

平成25年6月28日
教育総務課

江原道教育庁との教育交流として、朴起鎔（パク・ギヨン）副教育監をはじめ7名の訪問団が来県されました。教育交流協議を行うとともに、特色ある取組を行う学校を訪問し、意見交換や生徒との交流を行いました。

1 教育交流概要

期 日 平成25年5月28日（火）～5月31日（金）

来県者 朴起鎔（パク・ギヨン）副教育監ほか6名

日 程

期 日	内 容
5月28日（火）	仁川空港→米子空港 日韓友好交流公園「風の丘」視察
5月29日（水）	教育長表敬、教育交流協議、副知事表敬 学校訪問 ○鳥取西高等学校：協調学習・英語授業参観、意見交換 ○鳥取東高等学校：書道パフォーマンス等参観
5月30日（木）	学校等訪問 ○鳥取市立湖南学園：小中一貫校の授業参観、意見交換 ○教育センター：教育支援センター「ハートフルスペース」見学、 意見交換 ○琴の浦高等特別支援学校：施設見学 ○米子白鳳高等学校：郷土芸能の実演、意見交換
5月31日（金）	米子空港→仁川空港

2 意見交換概要

交流協議や各学校での意見交換において、それぞれの取組について紹介しあった。今後も鳥取県と江原道の教育の推進のため、情報交換することを確認した。

○江原道教育庁から紹介された主な取組

〈英語教育の推進〉

- ・ 毎年小中高30人ずつの計画的な教員の英語教育研修を実施している。英語能力認定評価テスト（OPICやTOEICなど国家能力試験）を活用して、研修成果を確認している。
- ・ 生徒に対しては、英語キャンプなど英語に親しめるようプログラムを運営している。
- ・ 韓国では小学3年生から英語の授業を行っており、英語の授業が増えることへの対策として、生徒が会話を楽しめるよう会話専門教師（正式な教師ではないが、正教員と分担して授業を担当。江原道内に約220名）を配置している。
- ・ およそ6%の学校が、飛行場や郵便局など、模擬体験ができる英語専用教室を設けている。

〈いじめ、不登校対策〉

- ・ 保護者支援のセンターでは、保護者への相談や指導を実施している。
- ・ 学校にカウンセラーを配置し、生徒のトラブルや相談に対処している。
- ・ 生徒たちに年1回程度、心理テストを実施し、不安がある生徒は専門機関でのカウンセリングを受けるなどしており、暴力や自殺予防に効果を上げている。
- ・ 学校に生徒委員会や暴力対策機関を設け、問題が起きた際に保護者を含めた会議を行い、どの位の罰を受けるか、学校内で解決ができるのか等の協議を行う。
- ・ 韓国では学校暴力が社会問題となっている。加害者への罰則が厳しく法律で決められ、加害生徒は更正プログラムを受けたり、保護者も教育プログラムを受けることになっている。

〈教員の負担軽減の対策〉

- ・ 教員の事務軽減の対策として、事務専門の職員を雇用している。

〈その他〉

- ・ 2016年から進路教育のための機関の設置を予定。
- ・ 中学1年の1学期は試験をせず、いろいろな体験や、進路のための企業訪問などを体験する制度を開始するよう準備中。
- ・ 教育庁では年2回正しいスマートフォンの使い方ができているか、中毒になっていないかを確認するためにアンケートを採っており、結果に問題がある生徒がいたら注意し、相談機関で保護者と一緒に教育を受けることもある。

○鳥取県側から紹介した取組で特に興味を持たれたもの

〈小中一貫校〉

- ・ 鳥取市立湖南学園の一貫校のカリキュラムや学校と地域の関わりなど事例を交えて紹介した。韓国には小中一貫校の制度がないが、小規模の学校が増えてくるので、鳥取県をモデルとして検討してみたいとのこと。

〈部活動〉

- ・ 鳥取東高校の書道部、箏曲部、茶道部、米子白鳳高校の郷土芸能部（淀江さんこ節）を視察し、生徒達が日本の伝統文化をしっかりと引き継いで活動している様子を見て、部活動があまり活発でない学校が多い韓国と違い、学問だけでなく、部活動にも力を入れている高校の様子に感心されていた。

